
わかっている、けれど・・・

K2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わかつている、けれど・・・

【Nコード】

N9025C

【作者名】

K2

【あらすじ】

光来に片思いの希楽彼の思うことは・・・逃げ道の番外編。

（前書き）

初めてのかたは、先に「逃げ道」↓「ガキ」↓「思い」を読まれた方がわかりやすいと思います。

「沖田さん」

「なんだ？」

「俺 仕事中でした」

「はあ？お前 俺のコレどうすんの？」

「知りません 自分で、なんとかしてください
それじゃ」

「ちよつ待て 光来！」

「ちゃんと薬飲んで寝てくださいよ」

「なんだよ キスだけさせといて・・・」

「七瀬」

「光来い 今日オフじゃないだろお」

「ん」 沖田さん・・・ 「俺は、たくんじゃないから はなし・・・ん？」

光来 お前・・・」

「うつわっ！七瀬じゃん」

俺からすぐに離れる。「悪かったな たくんは、仕事中」
「もう、熱下がったんだ」

よかった」

光来の口から出るのは、たくんのことばかり

まあ 当たり前だけど・・・それより

「光来 熱あるだろ」

「ふえ？ウツソ」

「ふえ じゃねえよ ちよつと熱計ってみろ」

「うん」

こつという時は、素直なんだな。

やっぱまだガキか・・・

「37度3分 微熱だな」

「それくらいなら、動けば直る」

「じゃあ仕事出んの？」

「うん 出る」

「じゃあ 早く来いよ」

パタン

やっぱ心配だなあ 仕方ねえ今日は、1番隊と7番隊
仕事一緒だから面倒見てやるか・・・

- 光来 -

うゝん・・・やっぱ頭イテエ

「七瀬 俺ちよつとぬけていい？」

「どうした？大丈夫か？」

「いや 薬買ってくる 頭イテエ」

「俺は、ぬけれねえから 誰か・・・」

「大丈夫だつて すぐそこだし」

「そうか 気をつけるよ」

「へーい」

俺より矢吹のこと考えた方がいいんじゃない？のお
今日 仕事別々なのに・・・

- 希楽 -

薬も水も買ったし戻ろお

あれ？

「希楽？」

「んゝあれ？光来じゃん」

希楽 空史「きら そうじ」22歳 七瀬のダチだ。

「どーしたの？こんなところで」

「頭痛かったから、薬買いに行ってた」

「熱？」

光来のでこに手をあてる。

「うわっ けっこうあるぞ」

「ウソオ 朝 そんなになかったのに」
「は？て、ことは・・・」

「お前 熱あるのに仕事してたのか？」
「してた」

「大丈夫だったのか？」

「大丈夫 この熱沖田さんのだし」

沖田・・・夕・・・くそっ

「それ 俺がもらってやろうか？」

「何、言つて・・・ちよっ」

ちようど、木が陰になって 人から見えない所に
光来を引っ張り、手を壁において逃げられないようにする。

「キスでもするつもり？」

「俺 本気だから」

そう言つて、顔を近づけていく。

「待つて 希楽！」

・・・・・・

「ゴメンッ」

光来を優しく抱きしめる

長い睫毛が震えてた

それに・・・

「ゴメンな 光来・・・」

顔を横にふる。

「大丈夫・・・だけど俺・・・」

「わかつてる わかつてるから」

しばらく、光来を抱きしめていた。

「俺 そろそろ戻らねーと」

「ああ 仕事中だったな」そつと光来を離す。ほんのり香るあまい香り。

「大丈夫か？送っていいとか？」

「いい 遊んでたろつて七瀬がウルセーから」

「わかった 気をつけるよ」

「すぐそこだつて、あつ

希楽」

「なんだ？」

「ヒマな時 屯所に遊び来て」

「おう 行つてやる」

急いで歩いていく光来を見送る。

よかった・・・

もう、おびえた目 してなかった。

それにしても・・・

俺 フラれたかな

あーでもやっぱカワイイし

なんで俺は、スキになつてもらえないとわかっているのにスキになつたのだろう・・・

「俺のものになつてくれねえかな」

まだ 諦めない。

終劇

（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9025c/>

わかっている、けれど・・・

2011年1月28日14時32分発行